



日本OECD共同研究

過去を超え、常識を超え、国境を超え  
2040年の日本をデザインするシンポジウム  
～今を生きる私たちのミッション～

このたび、日本OECD共同研究の枠組みにて、OECD教育スキル局政策助言・実施課長パウロ・サンティアゴ氏を迎える、教育を通した2040年のウェルビーイングな未来創造に向けて、日本の教育の課題と可能性を多角的に考えるシンポジウムを開催します。

日本は今、多くの国が今後直面するであろう深刻な課題の中に生きています。出生数の急激な減少、加速する高齢化、労働力不足、格差の拡大、増大する財政的・社会的圧力。これらの力はすでに地域社会、労働市場、民主主義のあり方を変容させつつあり、全く異なる時代を想定して設計された教育システムの限界を露呈しています。

「過去を超え、常識を超え、国境を超え、2040年の日本をデザインする—今を生きる私たちのミッション—」は、国内外から登壇者を招き、参加者が多様なステークホルダーの視点から「2040年の日本」のシナリオを構想する機会を提供します。

◇日時:12月11日(木) 14:30~17:30 (開場14:00)

◇ハイブリッド開催

- ・会場:全国町村議員会館(1階第4会議室)〒102-0082東京都千代田区一番町25番地
- ・ズーム:<https://us06web.zoom.us/j/82186155087> ミーティング ID: 821 8615 5087

◇申し込み登録フォーム(締切:12/9 18:00):<https://forms.gle/5wtMPnGRdr1fYJv26>

◇主催:日本OECD共同研究(OECD、東京学芸大学)

◇企画運営:2040年の日本をデザインするシンポジウム実行委員会

## &lt;Draft Agenda&gt;

12月11日(木)

| 時間<br>Japan - Time | 内容  |
|--------------------|---|
| 14:00～             | 会場：開場<br>ズーム：登壇者の接続確認   |
| 14:25～             | ズーム：参加者入室開始予定   |
| 14:30-14:35        | 1. Welcome & 今日の予定  |
|                    | 共同司会：竹内舞(専修大学) 藤原照恭(青楓館高等学院)<br>Onlineアシスタント：織田たかし(青楓館高等学院)   |
| 14:35-15:30        | 2. 基調講演 Keynote Speech  |
|                    | <p>パウロ・サンティアゴ<br/>経済協力開発機構(OECD) 教育・スキル局 政策助言・実施課長</p> <p>日本の未来の教育に向けた示唆—政策レビュー、ラーニング＆ティーチング・コンパス、PISA/TALIS等からの示唆</p>  |
|                    | <p>discussantコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・占部まり(内科医/宇沢国際学館代表取締役)</li> <li>・横山直(政策研究大学院大学教授(内閣府から派遣)／元OECD経済局エコノミスト)</li> </ul> <p>参加者との質疑応答 Q&amp;A from the floor - hybrid</p>  |
| 15:30-15:40        | 休憩  |
| 15:40-16:35        | 3. OECD E2040 グローバル・フォーラム：国際研究・国際対話から日本への示唆—スロバキア共和国ホスト(2025年11月24-26日開催)   |
|                    | <p>3.1 E2040 グローバル・フォーラムからの報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 概要説明—藤原照恭(青楓館高等学院)           <ul style="list-style-type: none"> <li>焦点1 AIのカリキュラム分析への活用、概念検証フェーズ1               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吉田星 東京大学大学院工学系研究科 准教授。文部科学省 学校戦略DX アドバイザー(ビデオ登壇)</li> </ul> </li> <li>● 焦点2 効果的かつ持続可能なカリキュラム実装のためのティーチングコンパス               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Suzanne Choo (准教授、国立教育研究所、シンガポール)</li> </ul> </li> <li>● 焦点3 カリキュラム変革にエコシステムで挑む               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ David-Alexandru Cristea, ルーマニア生徒 (ウィーン技術大学)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>3.2 OECD E2040 GF参加者によるパネルディスカッション形式<br/> 「ホスト国・スロバキアについて」「GFの内容—国際研究からそれぞれの立場でカリキュラムを実施する当事者としての深い学び」「深く印象に残ったこと」等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒グループ 寺尾怜生(福井県立大学) 他</li> <li>● 教師グループ- Dominique-Masaru (Salesians of Don Bosco Ng Siu Mui Secondary School)</li> </ul> |

|                        |   |
|------------------------|---|
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>教師になりたい学生グループ 小山翠結(神戸親和女子大学)</li> <li>研究者・企業グループ: 佐藤推太(一般社団法人教育AI活用協会:代表)</li> </ul> <p><b>3.3 Reflections and/or suggestions</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パウロ・サンティアゴ (OECD教育スキル局 政策助言・課長)</li> <li>兒玉和夫(元 OECD日本政府代表部特命全権大使)</li> </ul>   |
| 16:35-17:20<br>(45min) | <p><b>4. 2040年の日本にホンキで備える</b><br/>データの先にある暮らしと未来シナリオから、教育のこれからを考える</p>  |
|                        | <p><b>4.1 概要説明</b>一竹内陽渚(広島市立大学)</p> <p><b>4.2「2040年の日本」</b>(データの先にある暮らしと教育・保育のかたち)</p> <p>「2040年の日本」を、統計や予測グラフの奥にある「実際の暮らしと子どもたちの日常」としてイメージしてみるパネルディスカッション。各パネリストが「自身のリアルな原体験・想い」から出発し、「もしこうなったら? (What if シナリオ)」という未来の日本像を描きます。そのうえで、そのシナリオ社会のもとで教育はどうあるべきか／今から各自が何を始められるかを議論します。</p> <p>日本OECD共同研究で取り上げる自然災害、国際化、経済・デジタル社会という3つの切り口から、「2040年の日本にホンキで備える」ための具体的な一歩を考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2040年に向けて自然災害対策:三浦一郎(姫路市立花田小学校教諭)、輪島高校教師・生徒(予定)</li> <li>2040年の国内外の国際化:森 蒼太(Global Indian International School)</li> <li>2040年の経済・デジタル社会:今井俊介(群馬県教育委員会)</li> </ul> <p><b>4.3 発表へのコメント・未来に向けてのエールや提案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パウロ・サンティアゴ (OECD教育スキル局 政策助言・実施課長)</li> <li>兒玉和夫(元 OECD日本政府代表部特命全権大使)</li> </ul> |
| 17:20-17:30            | <b>5. クロージング</b>  |
|                        | 閉会の挨拶:大野彰子 (文部科学省 国立教育政策研究所 所長特別補佐(国際共同研究担当)(併)文部科学省 大臣官房文部科学戦略官)   |

司会・登壇者の皆様ご紹介

|  |  |  |   |
|--|--|--|---|
|   | <p><b>パウロ・サンティアゴ</b><br/>経済協力開発機構(OECD) 教育・スキル局 政策助言・実施課長<br/>OECD教育・スキル局における政策助言・実施課の課長として、加盟国およびパートナー国に対し、教育政策全般に関するエビデンスに基づく助言を主導している。これには、初等・中等教育から高等教育まで、教育のあらゆる分野が含まれる。サンティアゴ氏は2000年にOECDに入局し、教育・スキル局のアナリストとして、教員政策、高等教育政策、教育における公平性、教育評価とアセスメント、学校教育における資源活用、教育資金など、幅広い教育政策分野を対象とした国際比較レビューを数多く担当してきた。これらの取組を通じて、OECDの政策指針、包括的な分析の枠組み、今後のデータ収集のための開発的作業、そして各国の実践に関する豊富な知見を有している。また、これまでに25か国以上において、教員政策、高等教育政策、教育評価政策、学校資源活用に関するレビューを主導している。ノースウェスタン大学にて経済学の博士号を取得。</p> |   | <p><b>占部まり</b><br/>内科医/宇沢国際学館代表取締役<br/><br/>宇沢弘文の長女(3人兄弟末子)東京慈恵会医科大学卒業。1992~94年メイヨークリニック・ポストドクタルリサーチフェロー。地域医療に従事するかたわら宇沢弘文の理論をより多くの人に伝えたいと活動をしている。2022年5月京都大学人と社会の未来研究院に社会的共通資本と未来寄附研究部門が設立される。環境問題や教育・医療など社会的共通資本を基軸に多角的な横断研究が展開されており、その企画運営も協力している。日本メント・モリ協会代表理事 残すに値する未来理事 安寧社会共創イニシアチブ理事 日本医師会国際保健検討委員</p> |
|  | <p><b>吉田 墓</b><br/>東京大学大学院工学系研究科 准教授。文部科学省 学校戦略DXアドバイザー。博士(科学)。専門は教育工学、生成AI、アクティブラーニング、オンライン学習、ファカルティ・ディベロップメント。東京大学教養学部特任助教、東京大学大学総合教育研究センター特任講師を経て、2020年より現職。2022年11月にChatGPTが登場して以来、生成AIが教育に与える影響の大きさを鑑みて、独自オンライン講座の公開、各所での講演・研修60件以上を行う。また、令和6年度には「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関する検討会議」の委員として、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver 2.0)」の改訂に携わった。他にも生成AIに関する研究業績、ポータルサイトとコミュニティの運営など「教育における適切な生成AI利活用に向けた多面的な取り組み」が認められ、日本工学教育協会 第29回(2024年)</p>                                   |  | <p><b>横山直</b><br/>政策研究大学院大学教授(内閣府から派遣)／元OECD経済局エコノミスト<br/><br/>横山教授は1993年以降、日本政府において経済運営や経済分析に関する様々な職務を担当しました。また、2003年から2007年にはOECD経済局のエコノミストとして勤務し、2012年から2015年には在米国日本大使館にて経済担当参事官を務めました。2023年からは政策研究大学院大学(GRIPS)に勤務しています。学位は、一橋大学修士(経済学)、英国ウォーリック大学経済学修士、英国ロンドン大学(LSE)地域・都市計画学修士を取得しています。</p>                 |

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
|   | 度)工学教育賞(業績部門)受賞。  |   |  |
|  | <p><b>Suzanne Choo</b> is the Head of research at the Singapore Centre for Character and Citizenship Education and Associate Professor in the English Language and Literature department at the National Institute of Education, Nanyang Technological University, Singapore. Her research focuses on global citizenship education, ethics and ethical criticism, and the teaching of literature for developing, critical, aesthetic and ethical dispositions. Her research has been published in top peer reviewed journals such as Harvard Educational Review, Journal of Moral Education, Reading Research Quarterly among others. She is the lead editor of the Asia Pacific Journal of Education, a quartile 1 journal in Scopus. Her book, <i>Reading the world, the globe, and the cosmos: Approaches to teaching literature for the twenty-first century</i>, was awarded the Critics Choice Book Award by the American Educational Studies Association. She has led various research grants of over \$1 million on youth citizenship, values pedagogy and cosmopolitan virtues in literature that have impacted policies and teaching practices in education. Her website is <a href="https://www.suzannechoo.com/">https://www.suzannechoo.com/</a></p> |  | <p>兒玉和夫(こだま かずお)<br/>元 OECD日本政府代表部特命全権大使<br/><br/>兒玉和夫大使は、2020年11月にフォーリンプレスセンターの理事長に就任して現在に至っています。また、2021年4月から広島大学法学部の客員教授に就任しています。<br/>2016年9月から2020年8月まで欧州連合日本政府代表部大使を務めました。それ以前は、OECD日本政府代表部大使を務め、パリを3年間拠点としていました。兒玉大使は、1976年に外務省に入省し、オックスフォード大学で学び、学士号と修士号を取得しました。また、経済協力局審議官、外務報道官など、外務省で数多くのハイレベルな役職を歴任してきました。</p> |

(日本語公開用)

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
|  | <p><b>David-Alexandru Cristea</b>, student from Rumania (Technical University of Vienna)</p>  |  | <p>竹内陽渚<br/>広島市立大学</p>  |
|  | <p>大野彰子<br/><br/>文部科学省 国立教育政策研究所 所長特別補佐(国際共同研究担当)<br/>(併)文部科学省 大臣官房文部科学戦略官<br/><br/>1994年文部省(現文部科学省)入省。米国留学(コロンビア大学国際関係・公共政策大学院修了)、岡山県教育庁生涯学習課長、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課課長補佐、OECD(経済協力開発機構)教育局アナリスト、カンボジア教育省教育計画アドバイザー(JICA専門家)、文化庁長官官房国際課長、同文化財第二課長、文部科学省大臣官房総務課広報室長、同総合教育政策局調査企画課長、国立教育政策研究所教育データサイエンスセンター長(併)国際研究・協力部長、文部科学省大臣官房国際課長等を経て、2025年7月より現職。OECD-PISA(生徒の学習到達度調査)運営理事会理事(2014~2018年、2022年~)・副議長(2022年~)、OECD教育政策委員会の日本政府代表・副議長(2022年11月~)。</p> |  | <p>今井 俊介<br/><br/>群馬県教育委員会事務局総務課学びのイノベーション戦略室政策企画係 指導主事<br/><br/>群馬県の県立高等学校外国語科教諭として勤務した後、群馬県総合教育センターの指導主事として勤める。その後、群馬県教育委員会事務局総務課学びのイノベーション戦略室デジタル教育推進係を経て令和6年度より現職。現在は、非認知能力の評価・育成事業のうち、主に群馬・スコットランド共同研究及び指定校における教育実践の業務を担当している。</p> |

(日本語公開用)

|   |  |   |   |
|---|--|---|---|
|    | <p>佐藤雄太<br/>一般社団法人教育AI活用協会</p>                     |    | <p>寺尾 恵生<br/>福井県立大学</p>   |
|    | <p>森 蒼太<br/>Global Indian International School</p> |    | <p>小山翠結<br/>神戸親和大学</p>  |
|  | <p>三浦一郎<br/>姫路市立花田小学校教諭</p>                        |  | <p><b>Dominique-Masaru</b><br/>Salesians of Don Bosco Ng Siu Mui Secondary School</p> |

(日本語公開用)

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
|   | 輪島高等学校  |   |   |
|  | 竹内 舞(司会)<br><b>Takeuchi Mai</b><br>大学生<br>Student |  | 藤原 照恭(司会)<br><b>Fujiwara Teruyasu</b><br>青楓館高等学院 学院長<br>Seifukan High School, Principal |
|   |   |   |   |

## 2040年の日本をデザインするシンポジウム(敬称略)

企画運営実行委員会メンバー:

藤原てるやす(青楓館高等学院:学院長) 佐藤ゆうた(一般社団法人教育AI活用協会:代表) 竹内はるな(広島市立大学:学生) 竹内まい(大学生)  
寺尾れい(福井県立大学:学生)

共創パートナー

OECD Education2040 Project Team: Miho、Juan david、Emmi

登壇者・司会者・ファシリテーター

上記記載の皆様

当日運営サポート

織田たかし(青楓館高等学院) 柏木かのん(名桜大学:学生)

運営サポート

東京学芸大学(荻上けんたろう、太田たまき、池辺あい、宮坂しゅうへい)

(日本語公開用)

ボランティア

佐藤りょう(青楓館高等学院:生徒) 蓮沼 ももか(青楓館高等学院:生徒) 山口さとる(津屋崎ブランチLLP)